平成 27 年度第 2 回江差町総合教育会議「議事録」

- 1 開催日時 平成 28 年 1 月 28 日（木） 15：00～15：45
- 2 場 所 江差町役場町長室
- 3 出席者 江差町長 照井誉之介
江差町教育委員会 小路政信委員長・加澤優香子委員・高岡広明委員・中野志帆委員・新木秀幸教育長
(事務局：中川学校教育課長・西山教委総務係長)
- 4 協議事項 (1)平成 28 年度の教育行政推進について
①予算編成方針について
②教育委員会の平成 28 年度方針概要について
・コミュニティ・スクール導入に向けた検討
(2)幼児教育の今後の方向性について
①あすなろ幼稚園の今後について
(3)江差町教育大綱の策定について
①平成 28 年度からの教育推進計画について

● 中川学校教育課長

本日の協議事項につきましてはお手元の方に配布のとおりでございます。

これより平成 27 年度第 2 回江差町総合教育会議を開催いたします。初めに会議の主催者であります照井町長の方から挨拶をお願いいたします。

● 照井町長

教育委員の皆さん、こんにちは。改めまして本日はよろしくをお願いいたします。第 2 回の江差町総合教育会議ということで、お集まりいただきましてありがとうございます。

総合教育会議ということで、市町村長、あるいは都道府県知事に、権限が少し強く、教育に対しても、もっともっと力を入れろということでこの会議が開かれることになって今回で 2 回目であります。本日も、皆さんと一緒にいろんなご意見をお伺いしながら、ちょうど新年度予算の編成時期でもありますので、皆さんの率直なご意見をお聞かせ願えればと思います。そういう中で私も思っていることを皆さんにお伝えしたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

短いですが、ご挨拶とさせていただきます。

● 中川学校教育課長

ありがとうございました。

それでは会議の方に入らせていただきます。会議の議長は町長にお願いしたいと思いますので、町長よろしく申し上げます。

(1)平成 28 年度の教育行政推進について

①予算編成方針について

● 照井町長

それでは私の方で進めさせていただきます。

まず協議事項の第1項目、平成28年度の教育行政推進について議題といたします。最初に私からですね、予算編成の方針についてちょっとご説明したいと思います。今ちょうど隣の部屋でやっているのですけれども、予算の編成作業を行っています。本年度、私、一昨年、就任してですね、1年、新年度予算を策定して2回目の予算策定の時期に入ってまいりました。地方創生などもありまして、非常に積極的な予算編成が私は必要なのではないかというふうに思っています。特にこの地域経済をいかに発展させていくか、教育委員の皆さんの中にも地方創生に関する総合戦略について、検討委員になっていただいて、ご意見をいただいて今、進めているところです。それを踏まえながら、今、予算編成を行っているわけなんですけれども、特に教育やあるいは子育て支援ということは、私は非常に大事な分野だと思っていて、最重要課題の一つとして捉えています。子どもの数は減ってはいますけれども、どこにいても、日本のどこで育っても、同じような教育を受けられる、江差町だからこそ、できる教育というものもあると思っています。学力低下や、あるいは運動能力の面で、序列化されたりもしていますけれども、それだけではなく個性を伸ばす教育に対して、いろんな子どもたちがいる、それは障害であったり、あるいはいろんな立場の子どもたちがいる、そういう子どもたちを、しっかりと支えられる教育にしていきたいというふうに思っています。ついさっきまで教育長にも入っていただいて、学校教育の分野の今予算査定、明日は社会教育の分野で査定があります。いろんな項目あげられているので、今回の項目については恐らく教育長から後ほど説明があると思いますけれども、なるべく学校教育に対してですね、しっかりと予算付けをして、子どもたちが江差町で育つと、将来思っていただけのようなですね、そういう教育を、教育予算を付けていきたいというふうに思っています。大まかに言って、私はそういうふうな方針のもとに今、予算編成をしているということでもあります。

何かご質問とかですね、こういう声が教育についてあるんだということがあれば是非、お聞かせ願えればと思いますけれども、委員の皆さんいかがでしょうか。

- 新木教育長

何を要求しているか分かりませんものね。これはこの後の教育委員会で詳しく説明させて貰います。

- 高岡委員

町長さんおっしゃった内容で素晴らしいなと思います。僕もどんなに、今、町がどんどん過疎になって人口が減っていつているんだけども、13,000いた時も、今の8,200人になっても、僕は絶対差をつけちゃいけないのは教育と医療だと思っているんですよ。日本の国民で江差の町民である以上、どこにいてもちゃんとした教育を受けれて、ある程度の医療を受けれるっていうのが基本だと思っているので、決して教育長が無理な予算請求はしてないと思うので、十分に予算を付けていただければなと思います。

- 照井町長

ありがとうございます。

今高岡委員おっしゃったように、教育というのは非常に大事な分野だと思っていま

す。しかしながら概すると、財政が厳しくなると削られるのは公共事業、公共工事とですね、教育の分野だと思っています。そうであってはならないと思っています。この国が発展してきたのは教育をしっかりやってきたからだというふうに思っておりますので、今後もそういうことがないように十分配慮して予算編成に取り組んでいきたいと思っております。

他の委員さん、何かございませんか。

委員長、何か。

- 小路教育委員長

もう全部言われちゃってるから。

いや、あの本当にね、子どもの教育とかっていうのは最後にね、一番最後に結果っていうか効果が表れてくると思いますんで、人づくりの面から見てもやっぱり子供たちにしっかり教育受けさせて、頭の中にいつでも、このいろんな情報を入れられるような状態を作ってあげたいなど。となればやっぱり、教育についてね、あの、あまり、がんじがらめに考えなくてもいいけど、お勉強してもらって、未来の江差を担って欲しいなという。まあそんなところかな。

- 照井町長

他にご発言ございませんでしょうか。

なければ次に進んでもよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

②教育委員会の平成 28 年度方針概要について

- ・コミュニティ・スクール導入に向けた検討

では 2 項目目、教育委員会の 28 年度方針について教育長からお話をさせていただきますと思います。

- 新木教育長

はい。予算要求している学校教育社会教育の内容につきましてはこの後の、教育委員会で詳しく説明させていただきます。

で、一つだけですね、今日も学校教育の予算ヒアリングの中で町長にお願いしましたけれども、今全国的に、文科省あるいは道教委も進めておりますコミュニティスクール。これを近い将来、早ければ 29 年度、遅くとも 30 年度には、町内の学校に入れたいと考えてますので、コミュニティスクールってものはなんぞやっていう部分を、少し、学校の先生、あるいは P T A の皆さん、まあ、我々も少し勉強しなければなりませんので、まあ 29 年はですね、まあ金額的には全然多くないんですけども、そういう検討会を設けたいと、そのための少しの予算を、町長の方をお願いをしているところがございます。今あの、今日も江差小学校行って校長先生が檜山の教育局長に説明しているのを聞きますと、学校はいろんな工夫をしてやっている。ただなかなか我々の所までそれがうまく伝わってないというか、この間の学校訪問で学校の要覧を見てても、なかなかこう、ピンとこないところがあるっていうのがあるんですけど、各学校はいろいろそういうのでは頑張ってますし、まあ学力もそう悪くはないんですけども、地域の学校だということも位置づけていこうっていうのは今の国の方針ですので、そのためにはこのコミュニティスクールっていうもの

を、良い方に活かせるような形で、検討したいというふうに思っております。とりあえずはまず、従前どおりのものの積み重ねですけれども、一つプラスするとすれば、コミュニティスクールの事を検討したいということです。はい。

- 照井町長

何かご質問、ご発言はございませんでしょうか。

- 高岡委員

そもそもコミュニティスクールは何っていうところから始まらないとだめだね。

- 新木教育長

単純に言えば、学校の経営方針っていうのは今学校長の責任で作るんです。それで、各学校の中で、コミュニティスクールっていうことになると今度は運営協議会っていうのを作って、この運営協議会に校長の考え方を出して了解いただかないと、学校経営が成っていかないと。ですから地域の方、まあ3人入るのか5人入るのかは別にして、そういうふうに協議会を作って、校長の考え方聞いて、それはうちの地域には合わない、だめだと、こっちの方にしなさいと、こういうことも言えるっていう。全く地域の学校にしますよっていう。ですから、あの運営委員になる皆さんっていうのはそれなりに勉強していただいて、その人も入って貰うっていう。

- 高岡委員

より地域に密着した。

- 新木教育長

密着してる。この近辺ではですね、たまに新聞に出ますけども知内、の学校でやっています。檜山管内ではまだやってません。全道的にも、少し増えて来ました。はい。これは文科の考え方で努力目標なんですけども、まあ出来る限り、そういうコミュニティスクールにして、という。課題ないわけじゃないですよ。で、人事にも口出せることにもなってるんですけどね、それで大都会ではちょっとそこで止まったりも。

- 加澤委員

それって学校単位なんですか。

- 新木教育長

基本的には学校単位なんですよ。

- 加澤委員

なんとなくコミュニティスクールっていうと、私の中のイメージで、学区っていうイメージが、ちょっとあったんですよ。じゃなくて学校単位。

- 新木教育長

学校ごとなんです。だから例えば北小・中学校で、小中一貫でやっていますよって、あそこの評議委員会っていうのは一つあるんです。で、今のコミュニティスクールの運営協議会の制度から行くと、小学校も中学校も別々に作らなきゃいけない。ただ、方針としたら、同じ人を指名するということです。そして一緒にやっちゃう。というのも、可能。

- 高岡委員

あれ、小学校にある既存の評議委員とは別なんですか。

- 新木教育長

これまた別なんです。だからややこしいの。評議委員会があるからね。
(「うん」という声)

- 高岡委員

立場と役割分担が、明確にしてやらないと難しいね。

- 新木教育長

それから、うちは持ってませんが、学校支援本部というのがあります。うちでいうあの、健全育成会議。あれみたいの持ってるよあるんですよ。そことどう違うのかと、いろんなのあるんですね。だからその辺の整理をしなきゃならない。

- 加澤委員

今の話聞くと、何かこう北部の方の学校って、昔から、学校の中に地域の人入って、例えば運動会でもね、もう地域の運動会みたいな感じでずっとやってきたじゃないですか。何かこのコミュニティスクールって名前は変われども、古くて新しいのかなってちょっと思いました。あの、小中一貫もそうなんですけども、昔からそういう小さい学校って小中学校一緒だったじゃないですか。それがまた昔に何かこう戻って、昔の良さをまた取り戻している時代風景になって来ているのかなって、ちょっと感じますね。

- 新木教育長

ありますね。例えば日明小中学校にいた人、朝日小中学校にいた人、今の北小・中学校になったら、学校が少し遠くなったっていう感じを受けても、ある意味仕方ないところあるんですよ。もっと身近だったんです。日明、朝日の。

- 高岡委員

評議委員なんか全員、住民が評議委員なんだからっていうイメージだよな。

- 新木教育長

で、例えば今の田沢獅子舞であるとか、土場の獅子舞であるとかってのが、水堀中学校で持ってたやつ、日明小学校で持ってたのが、統合した事によってちょっと遠ざかってる。こういうのがあるんですね。

- 中野委員

あ、そうですね。それはあるみたいですね。

- 新木教育長

ですからやっぱり地域ともっと密着して、それは地域の人を学校でどう使うか。もう学校の先生、あなたの力だけじゃ、子ども、育てられません。だから学校が抵抗勢力っていうか、そこのところをうまくね、一足飛びにはなりませんけれども、お互い参加する人もそういう意識を持っていくと、地域の学校っていうのがもっと明確になってくるんだろうということ、これが一つの狙いですね。

- 高岡委員

いやもう、あの、人数によっては補助の先生も一人減らされたりとかっていう時代になって来てるんだから、地域の人でも先生のつもりで巻き込んでしまうという、そういう考え方しなきゃだめだよな。

- 加澤委員
そうですね。
(同意する声)
- 新木教育長
ですから、別に入れることを、導入することはそんなに、あの抵抗があるわけではなくて、そこをきちっと理解してもらえれば。うん。
- 高岡委員
学校がどこで開き直ってくれるかだね。
- 新木教育長
だから、子どもに対して先生なり担任の二つの面しかないのを、地域の人がよく、もし学校の中に入出入りが多くなると、二つの面、四つの面ってなっていく訳ですから、そうするとこう、抑止力にもなるだろうしっていう。まあ、そういう研究をしたいというのが28年度。そういうことです。
- 中野委員
はい。分かりました。
- 加澤委員
はい。
- 新木教育長
予算的にはね、そんなに大した金額は今、お願いはしてません。
- 照井町長
よろしいでしょうか。
(「はい」の声)
それでは次の項目に移りたいと思います。

(2) 幼児教育の今後の方向性について

① あすなる幼稚園の今後について

続きまして(2)番の、幼児教育の今後の方向性についてを議題といたします。あすなる幼稚園の今後についてちょっと私の考えを述べさせていただきたいと思えます。

江差町内には公立のあすなる幼稚園と、私立の江差幼稚園の二つがあって、その他、公立の保育園が3園あるというような状況であります。少子高齢化が進んでいること、あるいは、幼児教育の制度が変わったり、今、変革の時期にあるというふうに思っています。そういう中で今あすなる幼稚園の、公立のあすなる幼稚園の定員を満たしていない状況がずっと続いています。その一方で、江差幼稚園、私立の側も、定員割れをしているという状況が長く続いているというふうに聞いています。そういう中で、私の考え方としては、民間にできることは民間にやっただく、それで民間が、どうしても、厳しい部分は行政が支えていくと、いうスタンスが私は大事なのではないかなと思っています。そういう中でまだ時期的な物とかは明言できませんけれども、いずれ、あすなる幼稚園の募集を停止してですね、閉園と、いうふうな流れを作っていきたいなというふうに思っています。一見すると、あすなる幼稚園を閉園することで、そういう幼児教育やあるいは教育に対して、軽視してい

るのではないかというふうなご意見もあろうかと思えます。しかしながら逆に、今の体制を続けていくことによって、江差幼稚園さんの経営を圧迫し、そして江差幼稚園さんがもし、無くなってしまえば、もっとこの地域にとって江差町にとって、幼児教育の分野では大きくダメージが出てくると思えます。そういうことを避ける意味でも、民間にできることは民間にやっていただいて、それを行政が支援する体制に私は変えていきたいと、いうふうに思っています。大きな反発もあろうと思えます。しかしながら、その反発に対してはですね、真摯に向き合って、私が丁寧に説明して住民の理解、保護者の理解、地域の理解を得てですね、進めていきたいなというふうに思っております。

できればこの場で皆さんのご意見とかですね、お考えをお聞かせ願えればというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

- 小路委員長

町長のお考えでいいと思ったけどもね、ただ、まあ幸いここに幼稚園の先生いますけど。

- 高岡委員

英断をしなければならぬ時期タイミングに来てるんじゃないかなって思えますね。あの、何やるにしても、いいことだと思ってやるんだけども、反対勢力があって、いろんなこと言う人いるんだけども、そこは町長に芯をぶれないようにきちっとした姿勢で臨んでいただきたいなって。反対する人間の必ず 3 倍は賛成する人間がいます。そういう気持ちでいけば絶対大丈夫です。

- 照井町長

ありがとうございます。

- 新木教育長

少子化の中で、公立と私立を戦う必要っていうのは全くないんですよ。特に函館市みたいな大きい所なら別ですけども、うちみたいに小さいところで 1 園 1 園しかないんですから、やっぱり民間の力は民間の力で、その代わり行政は、町長が言ったように保育園でっていう、要は 8 時間保育はうちで持ちますよ、基本的な 4 時間保育は民間でやってくださいってことでは全然、ある意味時期を少し、逸しているかもしれませんね。

- 高岡委員

うん、と思えますね。むしろもう少し早くって思えます。なんでも民間がやればいいってものでないし、何でも行政がやればいいってものでもない。そこにはいいバランスと状況判断が必要だし、今もう既に、はるかにその時期を、僕も逸してるような気がするぐらい。

でなければ今通ってる子どもたちが可哀想ですよ。少人数で、今回あの去年のあすなる幼稚園の入園式に行った時、女の子が 7 人で男の子 1 人ですよ。こんなアンバランスな幼稚園可哀想ですよ。まあ、上下のね、先輩たちが加わって初めてある程度のバランスは取れていくんだけども、あまりにもちょっと可哀想だなって。そういう状況になってる以上は、やっぱり大勢の中で、自分の得手不得手を分かっていくとか認識していくってことは、やっぱり必要だなと思えますね。

- 新木教育長

まあそういう部分で、募集停止しても4歳児・5歳児はどうしても残りますから、だからまあ、募集停止を始めて3年はずっといなきゃならないっていう部分が出てくるんですね。ですから、町長の考え方の中でいつ募集停止をやるか。一番早いのは来年ですよ、29年の募集停止。うん。まあ、ちょっと、少し戦いあるかなと思うんですけど。遅くとも、いくら遅くたって30年には募集停止しないと、お互いが倒れちゃいます。特に民間さん倒れられたらうち困りますんでね、そこは、中ではもう一度町長の考え方をまたちょっと整理しながら、教育委員会としての考え方も出しながら、早い時期に募集停止というのをして、流れからいったら、3月の執行方針の中では一定程度の、今のようなお話は町長の方から。

- 照井町長

時期とか、あるいはどういうふうについていうのは、明言しないまでも、そういう方針を持っているってことは、オープンにしようと思っています。

- 新木教育長

ですから後は、内部でいつにするか、そして、例えばまあ来年、少し乱暴かなとも思うんですけども、ちょっと早く来年29年となると、秋口前には、議会なんかとの相談を少ししていくとか、あと保護者と話すとかっていうのは、秋口にはやっていかなきゃいけない。

- 高岡委員

遅くなればなるほど、やっかいになると思います。

- 新木教育長

そうですね。

- 高岡委員

どうせ風当たりがあるんだったら、早くやることでの風当たりを受けた方が、同じ風当たりだったら、そっちの方がいいような気がしますけどね。

- 中野委員

参考までに、ちょっと知ってるので、江差幼稚園の現状なんですけど。今55人いて、3月で18人卒園されます。そして、来年度受けるのは、去年の今の時点では15人の受付してたんですけど、今年は7人なんです。で、転勤の方も来る、あの、うちに来てくれる方が多いので、それに期待を持ってるんですけど、それにしても今の時点で7人っていうのは、「うーん」っていう。今子どもが本当にいないんだなっていう。

- 新木教育長

あすなる幼稚園も20人切ってしまう。

- 照井町長

何かご懸念されることとあって、ありませんか。

- 高岡委員

今勤務されてる職員の方っていうのは、どういうふうになるんでしょうか。

- 新木教育長

はい、あの、保育園の免許持っている、3人いるうちですね、2人は保育園の免許

持ってるんで。で、お一方だけ幼稚園しか持ってない。

- 新木教育長

前にもね、教育委員会でちょっとそういう方向性ありますよってお話はさせていただいて、今町長からの考え方を出示していただいて、委員さん皆全員が、そういう方向でということでは、多分町長も少し安心したんじゃないかと思っておりますので、3月の執行方針の中にはですね、力強く、ひとつ。後はまた、当然また委員会にもね、いろいろ言われるかと思えますけれども、少しまた議論をしながらですね、いつの時点で募集停止するか、まあこれは少し内部でまた考えていければなと思っておりました。

- 照井町長

そういう方針で今、進んで行くと思っておりますので、教育委員の皆さまにもご理解していただきたいなと思っております。

(3)江差町教育大綱の策定について

①平成28年度からの教育推進計画について

それでは(3)番に移りたいと思います。江差町教育大綱の策定について、教育長からお話ください。

- 新木教育長

現在の教育推進計画はこの3月末、27年度末で終わるってことで前にお話したと思います。今の学校教育と社会教育の新しい計画をどうするかってことで、叩き台を作っている最中です。流れとすれば、2月の教育委員会に皆さんに案を出して、そして今3月の教育委員会でご了解を貰うと、こういう流れで現在課長中心になって進めております。現在の教育大綱、これは町長が決める教育大綱なんですけど、現在の教育推進計画をそのまま教育大綱にしています。新年度、もう一度また28年度の1回目の時にまた少し協議しなきゃならないのですが、函館市なんての、こんなペラペラってものなんです。ですからさっきも直接町長に見せて、こんなものですかと町長言っていましたけども、まあこの程度のものであればですね、うちの教育推進計画の他にまた今の幼稚園なんかの考え方も少し、さらっと入れながらですね、うちもこれ新年度で、こういう別立てのもので作っていかうかなと。まあ、その前に今のうちの推進計画はちゃんと作りますけど、そういう考え方で行くってことで、ご理解いただければなと思っておりました。それだけです、はい。

- 照井町長

はい。何かご質問とか、ご意見はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

(「はい」の声)

それでは(4)番、その他、に移ります。何かありませんでしょうか。

どうぞ。

- 加澤委員

さっき、あすなる幼稚園の話が出た時に、今あの保育園って江差町に、ちょっと、ごめんなさい、保育園の話なので、ちょっとこの話と関係ないんですけども、3つありますよね。で、水堀と日明と、結構老朽化が激しいんですけども、今後、どう

いうふうに考えてますか。

あと、認定こども園って話前出たと思うんですけども、かもめ保育園建設する時に、いずれそういう予定っていうのは町長の中であるんでしょうか。

- 照井町長

まず1点目のあの北部の2園についてなんですけど、老朽化が進んでるっていうのは本当に認識しています。そういう中で子どもの数も減っていてですね、通わせている子ども、居住地と離れた園に通わせているような実態もありますので、今後ですね、その在り方についても考えていかなきゃいけないなというふうに思っています。

もう1点目のかもめ保育園の方なんですけども、かもめ保育園、一時そういう認定こども園という話もありましたけれども、当面はそういう考えは持たずにですね、今の保育園のまま運営していくことになると思っていますので、ご理解願えればと思います。

- 加澤委員

分かりました。

たまたま、ごめんなさい、職場の中で、私の所属してる職場の中で、保育園担当してる係なんです。で、あの毎年監査に行くみたいなんですけども、水堀の保育園が寒くて寒くて、よくああいう所で子ども達って。大人が行って、先生たちもすごい着てるんですけど。それでも寒いって言って帰ってくるので、子ども達大丈夫かなっていつもね、帰ってきたらね、監査した人達が言ってるのを聞いているので、私は行ったこともないんですけども、ちょっとその辺どうなのかなと思って気になってたんですよ。

- 照井町長

正直私も何度か行ってるんですけども、ちょっと、まあ厳しい環境にあるなっていうのは、私も身をもって感じています。どうすればいいのかっていうの今ちょっと今後、まずあの、あすなる幼稚園の方向性を決めて、その後ですね、保育園の在り方についても検討していきたいなと思っています。

- 加澤委員

はい、お願いします。

- 新木教育長

認定こども園にすると、公立の幼稚園を残すっていう考え方になるんです。

- 加澤委員

ああ、なるほどね。

- 新木教育長

これは今のかもめ保育園に、私やってる時にあそこ建ててる時に認定こども園にしましょうって、あすなる幼稚園だめにしましょうって。それはあの、かもめ保育園の中に、8時間保育と4時間保育に分けることになるんです、認定こども園だと。だから、今金さんで見たと思うんですけど、あの中には4時間で帰る人と8時間いる人がいるんです。今、町長から言われたあすなる幼稚園を将来廃園したいっていうことは、認定こども園は考えてないってことなんです。変にまたやっちゃうとね、

公立残すことになるんですよ。

- 加澤委員

ああ、なるほどね。分かりました。

- 照井町長

他に何かご発言ありませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、第2回江差町総合教育会議をこれで終わりたいと思います。本日の開催
ありがとうございます。